

経営比較分析表（令和4年度決算）

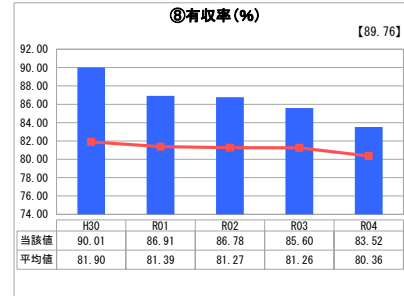
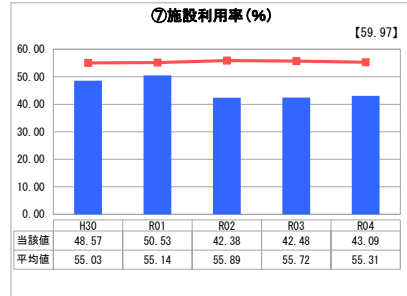
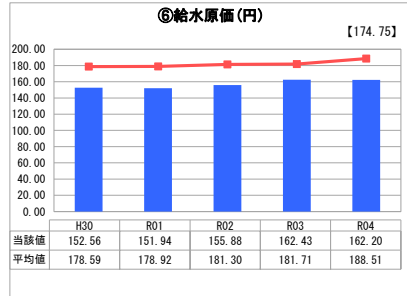
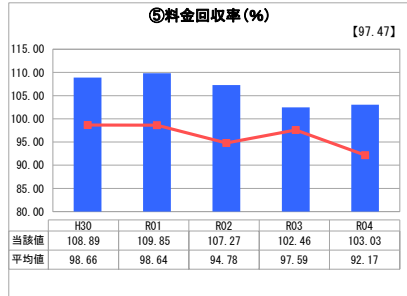
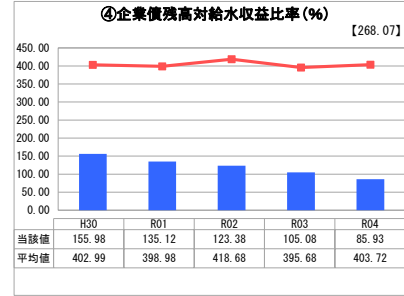
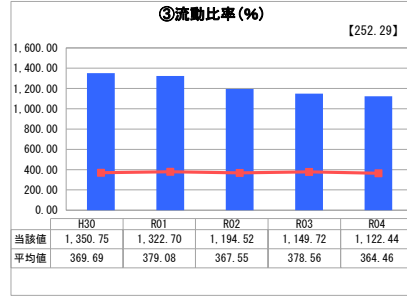
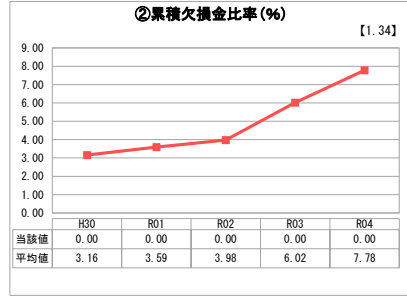
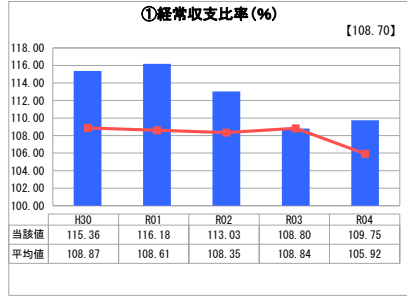
佐賀県 小城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	91.85	40.75	3,410	

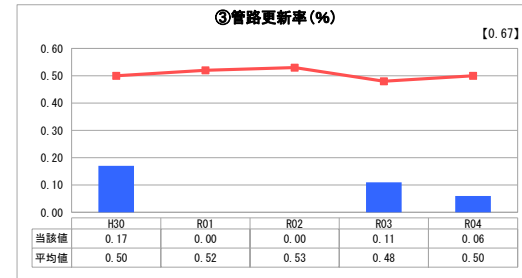
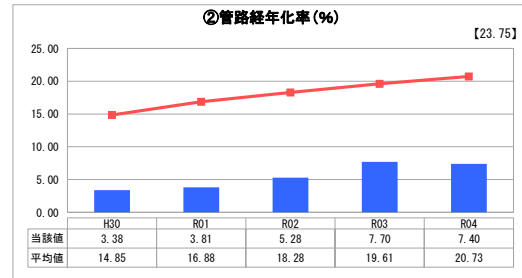
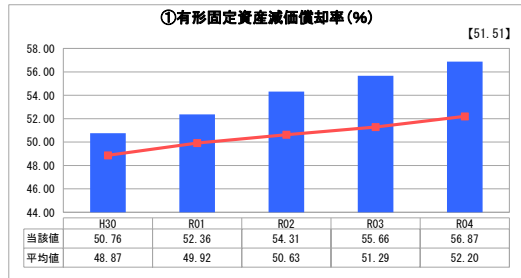
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,365	95.81	463.05
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,007	20.87	862.82

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は平均を上回り100%以上となっている、累積欠損金は0、流動比率は平均を大きく上回っている、企業債残高対給水収益比率は平均を大きく下回っている、料金回収率は平均を上回り100%以上となっている、ことから健全な経営が維持できているが、数値が少しづつではあるが概ね減少傾向にある。

これは、人口減少による水需要の減少や人件費、水道関連資材等の高騰により、同じことを行っても自然と収入が減り、支出が増える形になっており、今後の水道事業の運営に対して厳しい状況といえる。

また、施設の利用率は、平均を下回っているが、大口企業の移転と用水供給事業体から受水しているため、施設の稼働率が低いものと考えている。

ただし、施設のメンテナンスや改修、不具合等があった場合でも断水しないための施設や水源の確保は必要のため、今後施設や設備の大規模更新もしくは長寿命化のための工事等を行う場合は、その点も踏まえ、適正な施設規模の検討を十分に行う必要がある。

2. 老朽化の状況について

減価償却率は平均を上回っているものの、管路経年率が平均を下回っているため、法定耐用年数を超えた管路は少ないものの、全体的に老朽化が進んでおり、一斉に更新時期が訪れるものと思われる。

有収率は低下傾向にあるが、現状としては本管からの漏水は少なく、給水管からの漏水が多発している状況であるため、給水管の老朽化による漏水が主な原因ではないかと推測している。

今後は、老朽化による漏水が更に増加する可能性があるため、管路の経過年数や漏水の多発箇所、本管が漏水した場合の影響度を考慮しながら、計画的な管路の更新が必要と考えている。

全体総括

現状は経営の健全性が保たれているものの、給水人口の減少により給水収益は低下する一方で、老朽化していく管路や施設の更新に要する費用は増加していくものと考えている。

将来にわたって安定的に事業を継続するため、施設や管路の更新あるいは長寿命化をどのように行うかを検討し、経営の健全性も確保できるような具体的な計画が今後必要となる。